

# ■神田駅西口地区まちなかウォークブルプロジェクト 「KANDA フェス 2025 ～まちに人が集う“みんなの神田”～」

## 1:基本情報

### ① 主催者

- ・学校法人佐野学園専門学校神田外語学院/神田外語大学
- ・神田駅西口商店街振興組合
- ・内神田旭町々会
- ・多町一丁目町会

### ② 実施場所(エリア)

- ・神田外語学院本館・本部ビル
- ・内神田中央通り
- ・神田多巻小路



©OpenStreetMap

### ③ 企画から実施までの活動の流れ(活動に必要な申請書関係含む)

#### 【企画検討】

- ・6月19日:NTT都市開発株式会社、イオンモール株式会社、神田外語学院の三者で神田駅西口を舞台にした複合的なイベントの実施の可否につき検討開始
- ・6月25日:KANDA フェス実行委員会が神田外語学院学生支援チームメンバーを中心に発足
- ・7月7日～7月22日:公募提案に向けた企画検討(ステージパフォーマンス、各種催し物に係るコンテンツの検討、出演団体(者)・出店者の選定、出演・出店依頼打診)
- ・7月24日:神田駅西口商店街振興組合、内神田旭町々会、多町一丁目町会、NTT都市開発株式会社、イオンモール株式会社、神田外語学院の各代表者が集まりキックオフミーティングを実施(企画内容の共有と目線合わせ)
- ・8月26日:第2回全体ミーティング実施(8月1日の千代田区景観・都市計画課との話を踏まえ、役割分担・協力体制と実施運営に係る細部の確認)

#### 【準備】

- ・8月1日:千代田区景観・都市計画課との打ち合わせ【打ち合わせ内容:企画内容の説明、企画書提出、各種手続き、広報回り、今後の流れの確認他】
- ・8月29日:ウォーカブルなまちづくりの活動として採択
- ・9月3日:神田警察署との打ち合わせ【打ち合わせ内容:企画内容の説明、道路使用許可、パーキング・メーター等休止に係る申請に関する指導他】
- ・9月16日:道路占用許可申請書提出、道路使用許可申請書提出、パーキング・メーター等休止・撤去申請書提出、千代田区後援名義使用申請
- ・9月17日:道路使用許可承認、パーキング・メーター等休止・撤去申請承認、千代田区後援名義使用承認
- ・9月17日～10月初旬:備品発注(広報ツール含む)、広報開始
- ・10月3日:道路占用許可承認

#### 【活動実施】

- ・10月10日～10月11日:KANDA フェス 2025 実施  
(みんなの広場プロジェクトのみ 10月1日～10月14日にて実施)

#### ④ 活動の内容

2025年10月10日(金)、11日(土)の2日間、神田駅西口エリアにおいて、公共空間を活用して人が集い、滞在したくなる環境を整え、地域の居心地向上と生活の質の改善、併せて地域住民・在勤者・在学者・来街者が交流できる場を提供し、「顔の見える関係性」と「まちの一体感」を以下のイベントを通じて醸成することを目的に行われました。また、属性に関係なく多くの方々が関心を持って参加いただいたことにより、神田の「歴史・文化・商業・人」の魅力の再発見につながり、多文化共生や国際交流の推進にも資するフェスでありました。

開催されたイベントは以下のとおりです。

- ・神田外語学院および神田外語大学の学生・教職員や地域の方々によるステージパフォーマンス
- ・おかえり by 雪國商店(新潟上越の期間限定アンテナショップ)
- ・こどもハロウィンパレード
- ・EXPLORE KANDA for Visitors to Japan(訪日外国人向け神田街歩きツアー)
- ・こどもお仕事体験
- ・こども縁日
- ・訳あり野菜の詰め放題販売
- ・広場であそぼ(世界のゲーム体験)
- ・神田多幸小路 DJ ブース
- ・みんなの広場プロジェクト(10月1日～10月14日)

#### ○神田外語大学のショー・クワイヤサークルの パフォーマンス



#### ○おかえり by 雪國商店 (新潟上越の期間限定アンテナショップ)



#### ○こどもハロウィンパレード



#### ○EXPLORE KANDA for Visitors to Japan (訪日外国人向け神田街歩きツアー)



○神田外語学院教員によるバンド演奏



○訳あり野菜の詰め放題販売



○こども縁日



○広場であそぼ



○神田多喜小路 DJ ブース



○みんなの広場プロジェクト



また、神田多巻小路にて実施したみんなの広場プロジェクト(10月1日～10月14日)について、イベント効果の検証及び調査を行いました。主な内容は、「滞在空間が創出されたかの評価」及び「神田西口エリアに必要な滞在空間に関するアンケート調査」です。

【滞在空間が創出されたかの評価】

「千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン」において『まちなかの居心地の良さを測る指標』として提示されている3つの評価軸(①ハード環境、②空間の快適性・魅力、③人々の行動の多様性)に基づき広場の利用状況を評価することで、本イベントにより『滞在空間』が創出されたかの検証を行いました。

まちなかの居心地の良さを測る指標(案)		具体的な指標例
ハード環境	多様な人が集い、滞在し、交流するための空間が備わっているか	快適に歩くことができる場所 / 自由に座れる場所 / 自由に食事できる場所 / 日陰となる場所 / 夜でも明るい場所 / 運動・遊びができる場所 / 天候に左右されず活動できる場所 などの有無
空間の快適性・魅力	訪れた人が使いやすい空間と感じられるか	空間の明るさ / 静けさ / 開放感 / 美しさ / 安心感 / 体感温度 / 多様な人々の交流 などに対する感情的な評価
人々の行動の多様性	実際に多様な人々が集い、滞在し、交流しているか	通行者 / 休憩している人 / 人・景色を眺めている人 / 会話している人 / 飲食している人 / 運動・遊びをしている人 など、行動の多様性と人数

▲まちなかの居心地の良さを測る指標

(出典:「千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン」)

○結果

下記の図表のとおり、芝生常設期間は芝生とファニチャーを設置することにより閑静で開放感のある空間を創出し、自由に休憩、飲食、作業を行う人が見られました。また、イベント期間は広場であそぼ、DJブースにより、明るく賑わいのある空間を創出し、遊び、音楽を楽しむ、飲食を伴う談笑を行う人が見られました。

	芝生常設期間	イベント期間
①ハード環境	自由に座る、食事、作業ができるなど多様な行動に対応できる環境	遊び、音楽、夜でも明るいなど、賑やかな空間
②空間の快適性	静けさ、安心感、開放感のある空間	交流、明るさ、賑わいのある空間
③行動の多様性	作業、休憩、飲食など、一人～複数人で様々な行動	談笑、遊び、音楽を楽しむ、飲食など、複数人で交流を楽しむ行動



▲広場常設時

※個人情報保護の観点から実際のカメラ画像をイラスト風に加工しております



▲イベント時

○まとめ・考察

広場常設期間では『多様な行動に対応できる開放感のある滞在空間』、イベント期間では『賑やかで明るい、交流を促す滞在空間』、それぞれの期間で『人が集い、滞在したくなる環境』が創出されたといえます。

## 【神田西口エリアに必要な滞在空間に関するアンケート調査】

街に求められる滞在空間を具体化するため、芝生広場・イベント来場者へ「神田西口エリアに必要な滞在空間」に関するアンケート調査を実施いたしました。

### ■分析手法

アンケート実施日：10月3日(金)(芝生広場常設期間・イベント非実施日)、10月10日(金)(イベント実施日)

実施場所：神田多巻小路現地

アンケート質問項目：「神田西口エリア」にどんな広場があったらよいですか？

選択肢：昨年の分析結果や千代田区ウォーカブルデザインを踏まえて9つ設定 ※複数回答可

調査方法：選択肢のうち、当てはまるものにシールを貼付

(シールの色で属性を判別・・・青：神田通勤通学者、赤：神田居住者、緑：その他)



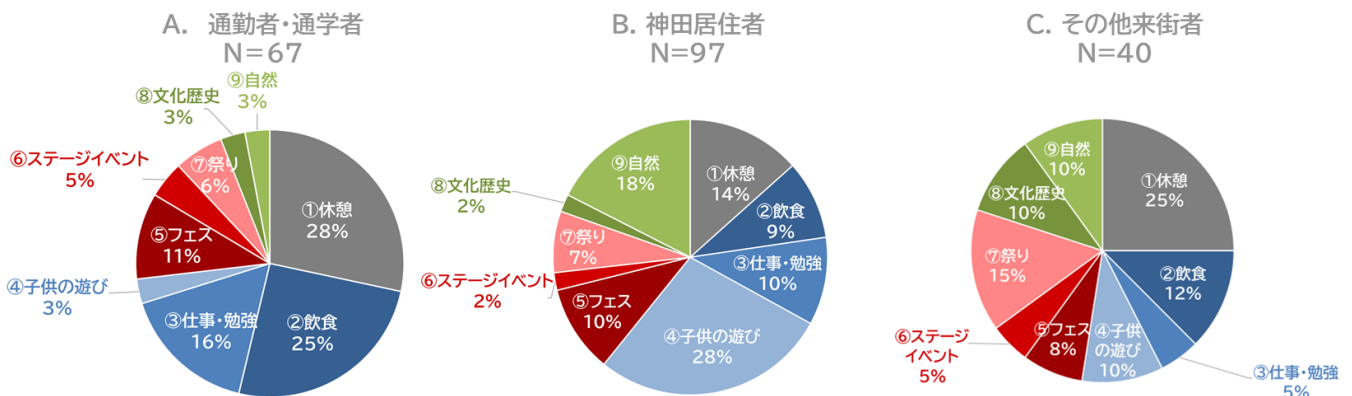
▲選択肢

## ○結果

通勤・通学者からは「①休憩ができる」「②飲食ができる」「③仕事・勉強ができる」の回答割合が多いことから、「通勤・通学する街」としての日常使いに適した広場空間、神田居住者からは「④子供を遊ばせる」「⑨自然に触れる」の回答割合が多いことから、「生活・子育てする街」としての日常使いに適した広場空間、その他来街者からは「⑦祭り・コミュニティ活動」などハレの日使いに適した広場空間が求められており、多様な需要に対応できる複合的な広場空間が必要とされていることが分かりました。

「神田駅西口エリア」にどんな広場があったらよいですか？(複数回答)

日常使い(一時利用)  
日常使い(目的性高い)  
ハレの日利用  
その他



## 2:活動の実施の仕方

### ①活動の実施体制

#### 【主催】

- ・学校法人佐野学園専門学校神田外語学院/神田外語大学
- ・神田駅西口商店街振興組合
- ・内神田旭町々会
- ・多町一丁目町会

#### 【協力】

- ・後援:【千代田区】
- ・活動の企画の協力:【神田駅西口地区まちづくり市街地再開発準備組合、NTT 都市開発株式会社、イオンモール株式会社】
- ・活動の準備の協力:【NTT 都市開発株式会社】
- ・活動の運営の協力:【神田鍼灸整骨院、リズム靴店、風カルチャークラブ】
- ・備品の貸与:【神田駅西口商店街振興組合】

### ②活動の収支状況

#### 【収入合計:563 万円】

- ・千代田区活動支援金:20 万円
- ・企業協力金等:543 万円

#### 【支出合計:563 万円】

- ・出演者、来賓用飲食代等:5 万円
- ・こどもハロウィンパレード用お菓子代等:2 万円
- ・チラシポスター印刷代、ラミネートフィルム代:2 万円
- ・出演者交通費:2 万円
- ・舞台機材搬入に係る諸費用:2 万円
- ・警備員代:14 万円
- ・神田多壱小路におけるイベント:536 万円  
(イベント費:294 万円、駐車場利用費:132 万円、調査報告書作成委託費:110 万円)

### ③広報活動の内容

- ・千代田区掲示板へのポスター掲出:9月22日～50枚
- ・千代田区 SNS への配信(Facebook、X、LINE):9 月 30 日～
- ・千代田区景観・都市計画課 SNS への配信(Facebook):9 月 25 日～
- ・大好き神田への配信(みんなの掲示板・イベント/スケジュール):9月19日～
- ・広報千代田掲載:10月 5 日号
- ・神田外語学院 HP 掲載:9月17日～
- ・佐野学園プレスリリース(PR タイムズ、大学プレスセンター、PR ワイヤー):10月3日～
- ・神田西口商店街酒祭りでのチラシ配布:9月26日
- ・近隣保育園、幼稚園、小学校、ホテルへのポスター・チラシ配布:9月25日～
- ・学内外ポスター掲示、学内チラシ配布・アナウンス:10月2日～
- ・NTT 都市開発株式会社の関係先企業等へポスター配布:9月25日～
- ・ミニストップ神田錦町1丁目店でのチラシ配布:9月25日～
- ・カンドゥー(「こどもお仕事体験」の出店元企業の HP 内でのリンク共有):10月1日～

### 3: 今後の活動の展望

#### ① 今回の活動を通じて実現した「地域課題の解決」、「新たな価値の創造」

##### ① 子ども・子育て世帯に対する地域イベント不足の解消(地域課題の解決)

- ・神田はビジネス街で、子ども向けイベントが不足している課題があった。
- ・チラシを受け取った保育園児がキャンパス内のハロウィン装飾を見に訪れるなど、神田外語学院が「子どもたちが気軽に立ち寄れる場所」として機能し始めた。
- ・神田外語学院が「こども 110 番」施設であることも再認識され、子どもの安心拠点として地域的な役割が強化された。

##### ② 地域団体・店舗との協働による連携強化(地域課題の解決&価値創造)

- ・近隣店舗や地域団体に協力を依頼し、ステージ発表の機会を提供。
- ・地域団体が活動を発表できたことが地域内のつながりや協働の基盤づくりにつながった。

##### ③ 地域の国際化・多文化共生の促進(新たな価値の創造)

- ・学生の多文化パフォーマンス(ダンス、英語 MC、オリジナルソング)により、地域住民が海外文化に触れる機会を創出。
- ・多言語対応が可能な学生による英語ウォーキングツアーを提供し、外国人観光客に神田の魅力を発信。
- ・雨天にもかかわらず外国人が参加したことから、地域が“国際交流の場”として機能し、神田の新たな価値となった。

##### ④ 滞在空間の創出(課題解決&価値創造)

神田多舌小路で実施した施策により、広場整備の重要性が明確化された。

- ・みんなの広場プロジェクトでは多様な行動に対応できる開放的な滞在空間を形成
- ・広場であそぼでは賑やかで交流を促す滞在空間を創出
- ・2 種類の施策により「人が集い、滞在したくなる環境」を創出
- ・アンケートでは日常利用(ケの日)と祭り/イベント(ハレの日)の双方を受け入れる広場の需要があり、“複合的な広場”が求められていることが判明

#### ② 活動を進める上での課題や苦勞したこと

地域の皆さまと連携しながら企画を進めることを目指したものの、個別の出演依頼など一方的な調整が多くなった。地域活性化を進めるうえでは、今後より実質的で主催側も地域の方々も互いにメリットのある協働のあり方を検討していく必要があると感じている。

また、当日は一部近隣の方から音量に関するご意見もいただいた。こうした声を踏まえ、今後は事前の説明や調整をいっそう丁寧に行い、地域に配慮した運営体制を整えていくことが重要であると認識した。

#### ③: ①や②を踏まえた今後の活動に向けた方針

- ・ウォーカブルなまちの実現に寄与する、神田エリアの特性に合わせた歩行/滞在空間や体験価値の創出
- ・アンケートや分析結果に基づいた、広場空間における需要調査の深度化
- ・地域の方々とより協働しやすいような企画内容や依頼方法を検討し、本質的な地域連携の強化を図る
- ・地域住民、近隣店舗、関係団体への事前説明や協議を徹底し、理解と協力を得る
- ・効果的な宣伝方法と屋内ステージへの誘導導線を検討する等集客戦略を見直し、観客数の増加を図る
- ・こどもに関するイベント(こどもハロウィンパレード、こども縁日、お仕事体験)は需要が高いため、参加者増加時に安全、且つスムーズに運営できる体制を整備する